

4. 日本の企業と日系農業者等のビジネス交流促進

日系農業者等と日本の企業とのビジネス創出を図るため、ビジネス交流等を実施。
本事業の効果的な実施を確保等するため、日系農業者等に関するデータベースを更新。
ブラジル及びパラグアイの日系農業者の生産実態調査及びその他必要な調査等を実施。

4(1) ビジネス交流等の実施

過年度事業で実施された日本の企業と日系農業者等のビジネス交流等のフォローアップとして、日本の企業と日系農業者・団体等との間で、ビジネス交流を実施した。ビジネスマッチングセミナー（オンライン商談会）については、12月4日から募集を開始して12月22日に選考を行い、1月27日～29日、2月3日～5日の計6日間で計12社のビジネス交流をオンライン方式で実施した。以下に募集・応募・選考・実施内容について記載する。

(1) ビジネスマッチングセミナー（オンライン商談会）

1) 募集

12月4日～21日の約2週間の募集期間を設けオンライン上で応募を募った。事業広報活動として、海外ビジネス展開支援機関への広報協力依頼を行った。具体的には中南米関連組織、省庁、地方自治体、JICA、JETRO、中小機構など。昨年度、同事業の広報に協力いただいた西日本、沖縄・九州・近畿・中国・関東地方の関連機関以外にも新たに北海道、東北、北陸といった地方でのメルマガ配信及び関心のある企業への声掛けを依頼し、中南米日系農業者とのビジネスに関心を有する企業の発掘に取り組んだ。さらにグローバル・フードバリューチェーン（GFVC）推進官民協議会の中南米部会の事業紹介や、メンバー登録推進といった広報活動を行った。その結果を以下に示す。

広報協力依頼先一覧

中南米関連組織	
日伯協会（神戸）：協力は検討	中南米各国在外公館：案内メール一斉送信
日本ブラジル中央協会：12月8日メルマガ配信	ラテンアメリカ協会：12月9日メルマガ配信、HP掲載
省庁	
九州農政局：協力は検討	中部経済産業局：協力は検討
近畿農政局：協力は検討	九州経済産業局：12月16日メルマガ配信
中国四国農政局：協力は検討	近畿経済産業局：12月18日メルマガ配信
	中国経済産業局：協力は検討
地方自治体	
横浜企業経営支援財団：協力は検討	ひょうご海外ビジネスセンター：関心企業へ周知
川崎市海外ビジネス支援センター：協力は検討	福岡アジアビジネスセンター：HP掲載
茨城県：関心企業へ周知	
JICA	
JICA Partner：12月4日～21日の期間掲載	JICA 関西：12月10日メルマガ配信
JICA 北海道（札幌）：協力は検討	JICA 四国：関心企業へ周知
JICA 筑波：関心企業へ周知	JICA 九州：協力は検討
JICA 北陸：関心企業へ周知	JICA 沖縄：12月14日メルマガ配信
JICA 中部：12月15日メルマガ配信	JICA 中南米各国事務所：案内メール一斉送信
JETRO	
JETRO 本部：12月15日メルマガ配信	JETRO 神戸：協力は検討
JETRO 仙台：協力は検討	JETRO 福岡：スケジュールが合わず見送り
JETRO 埼玉：協力は検討	JETRO 沖縄：協力は検討
JETRO 名古屋：12月18日メルマガ配信	
中小機構	
中小機構本部：協力は検討	中小機構 九州本部：関心企業へ周知
中小機構 近畿本部：協力は検討	中小機構 沖縄事務所：協力は検討
中小機構 中国本部：12月8日の週でメルマガ配信	

その他	
GFVC 中南米部会参加企業：案内メール送信 事業推進委員：案内メール一斉送信 AOTS 総合研究所（ARI）：関心企業へ周知	株式会社 RESORZ：メルマガ日程が合わず断念 N3plus：メルマガ日程が合わず断念



南米との農業・食産業ビジネスマッチング
オンライン商談会・南米の日系農業者とのビジネス交流

プログラム

2021年1月27日～29日、2月3日～5日 開催
南米の日系農業者とのオンラインでの商談会を通じて、企業紹介・情報交換・マッチングなどを行う。南米へのビジネス展開の機会を創出する。大企業・中小企業・個人事業主の参加を歓迎する。南米の日系農業者とのビジネス交流の場を創出する。南米の日系農業者とのビジネス交流の場を創出する。

対象企業
2021年1月27日～29日、2月3日～5日
南米の日系農業者とのオンラインでの商談会を通じて、企業紹介・情報交換・マッチングなどを行う。南米へのビジネス展開の機会を創出する。大企業・中小企業・個人事業主の参加を歓迎する。南米の日系農業者とのビジネス交流の場を創出する。南米の日系農業者とのビジネス交流の場を創出する。

内容
2021年1月27日～29日、2月3日～5日
南米の日系農業者とのオンラインでの商談会を通じて、企業紹介・情報交換・マッチングなどを行う。南米へのビジネス展開の機会を創出する。大企業・中小企業・個人事業主の参加を歓迎する。南米の日系農業者とのビジネス交流の場を創出する。南米の日系農業者とのビジネス交流の場を創出する。

応募
2021年12月21日正午まで、下記よりお申し込みください（応募先数の関係により変更となる場合があります）。

備考
日本語（ポルトガル語・スペイン語同時通訳）、参加費無料
オンライン開催に必要ない場合、会場は各社で実施

一般社団法人ラテンアメリカ協会
Japan Association of Latin America and the Caribbean

会員登録ログイン | リートマップ | Japanese | English

HOME | 協会案内 | カレンダー | 協会会報 | 各種資料 | 加盟情報 | 研究所 | 情報提供 | 連携機関 | お問い合わせ

【企業募集】農林水産省委託事業「南米の日系農業者とのオンライン商談会」

2021-12-09 11:06:02

記事検索

本サイトにUPされた記事
を自由に検索することが
できます。

キーワード

カテゴリ

すべて

事業ウェブサイトでの募集

ラテンアメリカ協会ウェブサイトへの掲載

2) 応募

令和2年12月4日～12月21日正午まで募集を行い、以下の18社の応募があった。

No.	企業	商材
1	有限会社システムデザイン	高濃度に精製した植物活性剤フジミン（フルボ酸）
2	株式会社ビーティエヌ	高品質消石灰、植物活力液、特殊肥料、病害虫予防剤等
3	株式会社タカヤマシード	野菜種子（主に短日系玉葱、白菜、南瓜種子等）
4	大紀産業株式会社	農産物加工用食品乾燥機
5	カナジアジャパン株式会社	農産物の成長促進剤、高栄養価保持低温乾燥機
6	株式会社EM研究機構	EM菌（有用微生物）を利用した土壌改善
7	関西産業株式会社	籾殻くん炭を使用した土壌改良剤の製造装置の現地導入
8	株式会社トップマン	農業/林業向けの道具・肥料・器具、日本食向け道具、日本酒
9	株式会社アディルザス	保存期間最長7年の最先端レトルト技術
10	株式会社イマイ	食品輸入（穀物、冷凍フルーツパルプ、食品・飲料等）
11	株式会社BlueBee	農業用、物資搬送用ドローン
12	株式会社ケツト科学研究所	穀類水分計、白度計、穀粒判別器、近赤外成分計、赤外線水分計
13	住友商事株式会社 （ブラジル住友商事会社）	食品トレード、農業資材など農家・農業支援ビジネス
14	ニシガキ工業株式会社	高枝切ハサミ、高枝ノコギリ、電動高枝・太枝切ハサミ
15	株式会社ネクスティエレクトロ ニクス	電子製品 ODM 受託サービス
16	株式会社サボテン	剪定鋏、芽切り鋏、刈込鋏、ノコギリ等
17	双葉三共株式会社	純日本産原料を完熟させたコンポスト（土壌改良剤）
18	有限会社高芝ギムネ製作所	農業用の刃物、やすり、草刈刃、安全保護具、鳥獣対策商品

3) 選考

中南米日系農業者に関心がある企業へのアンケート結果も踏まえ、12月22日に農林水産省と共に中南米展開状況などを考慮に入れて選考を行い、12社でのビジネスマッチングセミナー（オンライン商談会）を実施することとした。その後、企業側からの辞退等もあり、最終的に以下の企業が参加することとなった。

No.	企業	商材
1	有限会社システムデザイン	高濃度に精製した植物活性剤フジミン（フルボ酸）
2	株式会社ビーティエヌ	高品質消石灰、植物活力液、特殊肥料、病害虫予防剤等
3	株式会社タカヤマシード	野菜種子（主に短日系玉葱、白菜、南瓜種子等）
4	大紀産業株式会社	農産物加工用食品乾燥機
5	カナジアジャパン株式会社	農産物の成長促進剤、高栄養価保持低温乾燥機
6	株式会社EM研究機構	EM菌（有用微生物）を利用した土壌改善

7	関西産業株式会社	籾殻くん炭を使用した土壌改良剤の製造装置の現地導入
8	株式会社トップマン	農業/林業向けの道具・肥料・器具、日本食向け道具、日本酒
9	株式会社アディルザス	保存期間最長 7 年の最先端レトルト技術
10	株式会社イマイ	食品輸入（穀物、冷凍フルーツパルプ、食品・飲料等）
11	株式会社 BlueBee	農業用、物資搬送用ドローン
12	株式会社ケツト科学研究所	穀類水分計、白度計、穀粒判別器、近赤外成分計、赤外線水分計

4) 実施概要

実施にあたっては、日本企業のプレゼンテーション資料を事業ウェブサイト内の特設ページで事前公開（1月15日～24日）し、中南米日系農業者が閲覧・参照できるようにして参加希望者を募集した。開催概要及び実施結果を以下に示す。参加者の詳細は別冊の事業実施報告書資料編に記載する。

a. 基本情報

日程	令和3年1月27日～29日、2月3日～5日 午前 8:00～8:50、9:00～9:50
場所	オンライン開催（Zoom）
参加者	日系農業者：合計 65 名（ブラジル 42 名、アルゼンチン 3 名、パラグアイ 5 名、ボリビア 9 名、ペルー 2 名、コロンビア 3 名、メキシコ 1 名） 関係機関：合計 12 名（農林水産省、在外公館、JICA、大学等） ※参加者人数は重複除く 12 回の合計
内容	1) 企業プレゼンテーション（15 分） 2) 意見公開（35 分）※必要に応じて最大 50 分の延長
言語	日本語・ポルトガル語/スペイン語同時通訳

b. 企業日程

No.	日程	曜	8:00～8:50	9:00～9:50
1	1月27日	水	有限会社システムデザイン	株式会社ビーティエス
2	1月28日	木	株式会社タカヤマシード	大紀産業株式会社
3	1月29日	金	カナジアジャパン株式会社	株式会社EM研究機構
4	2月3日	水	関西産業株式会社	株式会社トップマン
5	2月4日	木	株式会社アディルザス	株式会社イマイ
6	2月5日	金	株式会社 BlueBee	株式会社ケツト科学研究所

c. 参加者※

※参加者人数は重複除く 12 回の合計

ブラジル(42)	AGROLOGISTICA(2)、AGROPODAS(2)、Ambiem Brazil(1)、APPC 農協(1)、B&R Brasil Importação e Comércio de Ferramentas Fertilizantes e Utilidades Ltda.(1)、Ecosistema Inovação de Londrina(1)、Ello Agricultura Sustentável(1)、Fitotropia(1)、Inovaragro(1)、Kamino 農場(1)、Nakagami & CKC Ltda.(1)、Vinícola Hiramami Ltda(1)、イビウナ地区労働組合(1)、イビウナ農協(1)、ユニオンカストレンセ農協(1)、カップボンニート農協(1)、サンヴェルジェ食品飲料加工販売(1)、サンジョアキン農協(2)、サンタエルシリア・ホールディング(1)、サンフランシスコ川中流域日伯文化体育協会(1)、トランスアマゾニカ協会(2)、日伯スポーツ文化協会(1)、農業供給局サンパウロ州農業技術課(1)、ノバリアンサ農協(2)、バストス地域鶏卵生産者協会 (2)、兵庫県ブラジル事務所 (4)、ビトゥルナマテ茶協会(1)、ブラジルフードサービス (2)、ブラジル農業畜産食糧供給省(1)、弓場農場(1)、レジストロ日伯文化協会(1)、ロライマ日伯協会(1)
アルゼンチン(3)	AgroArgentinaJapon(1)、ハルディンアメリカ生産者組合(1)、メルコフロール花卉生産者組合(1)
パラグアイ(5)	SD Paraguay SRL(1)、Asunción (1)、イグアス農協(1)、パラグアイ日系農協中央会(1)、個人(1)
ボリビア(9)	Santa Cruz de La Sierra (3)、サンフアン農協(6)
ペルー(2)	エスキベル農畜産物生産者協会(2)
コロンビア(3)	Bioagro 社(1)、Piscicultura (魚養殖) (1)、フルーツアンデス社(1)
メキシコ(1)	iAgroS 社(1)

d. 企業ごとの参加状況（日系農業者・関係機関）

No.	日付	曜	8:00～8:50	9:00～9:50
1	1月27日	水	有限会社システムデザイン：合計17名 （ブラジル9名、アルゼンチン2名、パラグアイ2名、ペルー1名、コロンビア2名、メキシコ1名）	株式会社ビーティエヌ：合計18名 （ブラジル10名、アルゼンチン3名、パラグアイ1名、ペルー2名、コロンビア1名、メキシコ1名）
2	1月28日	木	株式会社タカヤマシード：合計14名 （ブラジル8名、アルゼンチン1名、ボリビア2名、ペルー1名、コロンビア1名、メキシコ1名）	大紀産業株式会社：合計20名 （ブラジル10名、アルゼンチン1名、パラグアイ2名、ボリビア3名、ペルー2名、コロンビア1名、メキシコ1名）
3	1月29日	金	カナジアジャパン株式会社：合計12名 （ブラジル7名、パラグアイ1名、ボリビア2名、ペルー1名、メキシコ1名）	株式会社EM研究機構：合計20名 （ブラジル14名、アルゼンチン1名、パラグアイ1名、ボリビア2名、ペルー1名、メキシコ1名）
4	2月3日	水	関西産業株式会社：合計17名 （ブラジル9名、アルゼンチン1名、ボリビア4名、ペルー2名、メキシコ1名）	株式会社トップマン：合計18名 （ブラジル11名、アルゼンチン1名、ボリビア4名、ペルー1名、メキシコ1名）
5	2月4日	木	株式会社アディルザス：合計20名 （ブラジル9名、アルゼンチン2名、パラグアイ1名、ボリビア4名、ペルー2名、コロンビア1名、メキシコ1名）	株式会社イマイ：合計30名 （ブラジル15名、アルゼンチン1名、パラグアイ2名、ボリビア6名、ペルー3名、コロンビア2名、メキシコ1名）
6	2月5日	金	株式会社BlueBee：合計23名 （ブラジル15名、ボリビア3名、ペルー3名、コロンビア1名、メキシコ1名）	株式会社ケツト科学研究所：合計7名 （ブラジル3名、ボリビア2名、コロンビア1名、メキシコ1名）

5) 実施結果

① 有限会社システムデザイン

日程	1月27日（水）8:00～8:50
発表者	有限会社システムデザイン 代表 新堀耕司 国土防災技術株式会社 事業本部長 田中賢治、上野直哉
商材	高濃度に精製した植物活性剤フジミン（フルボ酸）

a. 実施概況

- 過去8年にわたり日本の住宅建設図面の作成をパラグアイで行う同社は、JICAパラグアイと現地日本大使館から同地の塩害対策の相談を受けたことをきっかけに、国土防災技術株式会社の土壌改良剤フジミンの現地販売パートナーとしてビジネス展開をしている。パラグアイでのサンプル散布実施後、コロナ禍で同事業が延期となったため本事業へ参加となった。
- 独自の技術でフルボ酸を人工的に精製したフジミンは 自然界に存在するフルボ酸の数百倍だが、自然由来原材料を使用しているため中南米諸国への輸出も可能。光合成の活性化、肥料の吸収効率向上、土壌の団粒化促進、塩類集積による障害の抑制、土壌 pHの緩衝作用などの効果が期待できる。
- 日系農業者からは実際の散布量や価格、マテ茶などの現地で栽培されている作物への具体的な使用方法などについて細かい質問が多く出た。
- 有機栽培、オーガニック認証などの付加価値は農業者にとって重要であり、人工的な土壌改良剤よりも天然成分のものが好まれる傾向にあった。実際に同商品のブラジルでのオーガニック認証の有無を気にする声も上がったが、現在はブラジルでの商標登録の取得のみでオーガニック認証については、同国の農牧供給省と今後の実験効果を見ながら話を進めていく予定。
- 国土防災技術株式会社はJICA事業でパラグアイでの実証実験を進めており、さらにシステムデザインというパラグアイ現地販売企業があるという強みを活かしながら、製品登録やオーガニック認証取得などをより進めていくことで、中南米各国へ展開していくことが期待される。

b. 企業所感

- 様々な国の農業者から興味を持っていただいたことがわかったが、ブラジルではニーズはあるものの製品登録等のハードルが高いことが確認できた。
- オンラインビジネスマッチングは関心の高い参加者に一斉に製品紹介ができ、他企業と同時に実施するビジネスマッチングよりもかなり時間の有効活用となった。

② 株式会社ビーティエヌ

日程	1月27日（水）9:00～9:50
発表者	代表取締役 市川洋征、特別顧問 棧敷龍欣
商材	高品質消石灰、植物活力液、特殊肥料、病虫害予防剤等

a. 実施概況

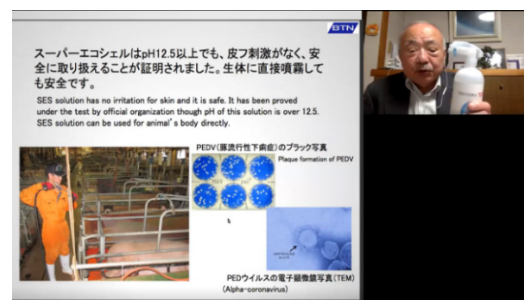
- 土壌改良剤、特殊肥料、病虫害予防剤等と多岐に渡り展開している同社は、東南アジア向け輸出販売をメインに除菌剤も米国へ出している。アルゼンチンなどの南米地域で行われたJICAミッションに参加し、南米展開を検討している。今回の商材は高品質消石灰スーパーコンシエルジュで、100%天然石灰岩由来の水酸化カルシウムによって土壌をアルカリ化でき、減農薬・無農薬栽培の土壌改良や鶏舎・牛舎の消毒等バイオセキュリティへの活用が見込める。
- 参加者からは具体的な活用法や現地での購入方法、現地生産の可能性などの質問が上がった。土壌改良に限らず、畜産でも“オーガニック”や“天然”については注目度が高く、実際に鶏舎の消毒に人工的な薬剤を使っているメキシコの農業者からは、天然由来成分100%である同商品をどこで購入できるか関心が示された。
- 日本産の高品質な消石灰ということで、現地製造というよりはまずは日本からの輸出になるため、現地販売パートナーの確保が今後の中南米向けビジネス拡大への鍵と考えられる。

b. 企業所感

- スーパーコンシエルジュの多岐に渡る使用用途に関心を示して頂いたと感じた。今後は現地パートナーを探しつつ、現地での栽培検証行い使用方法の確立をしたのち、各農業者への販売を目指していく。
- 現地までの運送コストが大きな課題。中南米農業者とのマッチング以外にも日本側企業同志の交流会も開催することでコンテナシェアなどの話し合いができるのではないかな。
- アフターコロナの現地渡航を見据え、それまではオンライン商談を有効活用していきたい。



有限会社システムデザイン



株式会社ビーティエヌ

③ 株式会社タカヤマシード

日程	1月28日（木）8:00～8:50
発表者	河野 辰志
商材	野菜種子（主に短日系玉葱、白菜、南瓜種子等）

a. 実施概況

- 野菜種子を販売する会社で野菜種子は短日系の大根、キャベツ、きゅうり、玉ねぎなど幅広く展開。現在は東南アジア（フィリピンなど）をメインに販売しているほか、中南米ではブラジルでも取引をしている。ブラジル周辺国マーケットへの取引拡大を狙って参加。
- 日系農業者からは各種種子の価格や栽培方法、現地の気候に適應できるかなどの質問が飛び交った。無料サンプル（50g～）も提供可能で、購入した際は栽培マニュアルも付属される。中南米であり出回らない日本のキュウリ（細長いもの）などは現地キュウリと差別化できるのではという声もあり、まずは現地で栽培可能か他の品種も含め、サンプルでの試験栽培を提案した。
- 既にブラジルでの取引はあるが、周辺国での取り扱いがないため各国の輸入規制に合わせた対応ができる現地パートナーの発掘が必要。同社は日本ではメジャーな品種である青首大根や葉の柔らかいキャベツを扱っているが、中南米でそれらを食べるのは日系人や一部の中華・韓国系で中南米の食文化に浸透するかは未知数。より現地の食生活にマッチするような品種からスタートすることが近道だと考えられる。

b. 企業所感

- 事業拡大の実現可能性はあるものの、中南米での需要が高い品種が少ないという事が分かった。
- まずは現地市場調査をより深め、同地市場に合う商品開発に尽力していきたい。

④ 大紀産業株式会社

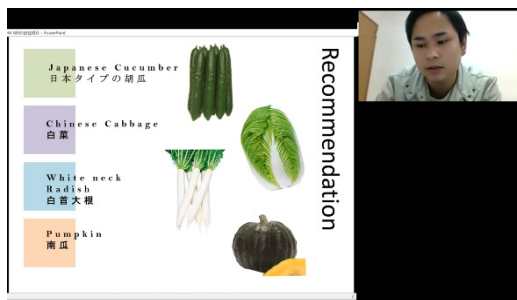
日程	1月28日（木）9:00～10:35
発表者	代表取締役社長 安原 宗一郎
商材	農産物加工用食品乾燥機

a. 実施概況

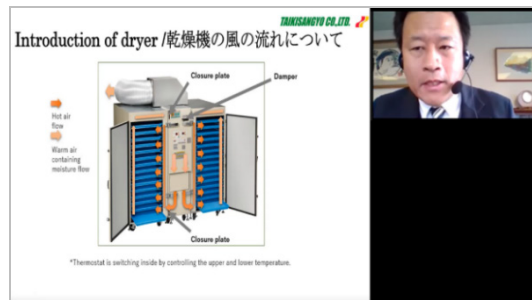
- 野菜や果物などの農産物加工用食品乾燥機を取り扱う同社は、食品乾燥機のシェア日本一を誇り、アフリカ（スーダン）でJICAの普及・実証事業を実施している他に、東南アジア、ブラジルやパラグアイの日系企業向けに取引実績あり。現地に合わせた機械の操作方法やアフターケアに対応できる現地販売代理店探しを目的に本事業に参加した。
- 規格外品生産物の活用や、日本など遠方の国への輸出コスト削減も実現できることから食品乾燥機への注目度は高く、多くの中南米農業者が参加した。機械の消費電力量、乾燥後の保存期間や具体的な乾燥物の例（干し芋、ドライフルーツ、野菜粉末など）について幅広く質疑が行われた。灯油ではなく電気乾燥させることの利点を聞く声もあった。
- 中南米参加者の製品への関心はとて高く、予定時間を延長して商談が行われた。同社商品の特徴である乾燥時間の短縮、ランニングコスト削減などにより、現地で安価で購入できる中国製乾燥機との差別化を図ることや、アフターケアを担う現地パートナーを発掘することで今後の中南米でのビジネス展開が期待できる。

b. 企業所感

- 想定した以上に、興味・関心を持つ人が多く、規格外品農産物を活用した食品ロス削減に意識が高まっていることを強く感じた。
- 日本語話者が多かったことに驚いたが、非常に親しみやすさを感じた。
- 今後は現地販売店を開拓し、まずは日系農業者に弊社の乾燥機を使用してもらい、それから現地ローカル販路を拡大していきたい。
- 年4回程度定期的にビジネス交流が出来る場を作りたい。



株式会社タカヤマシード



大紀産業株式会社

⑤ カナジアジャパン株式会社

日程	1月29日（金）8:00～8:50
発表者	加藤 英一
商材	農産物成長促進GT-S（フミン酸、ミネラル、アミノ酸等）、高栄養価保持低温乾燥機

a. 実施概況

- 製紙製造関連、水処理関連化学品などを世界展開している「カナジアスペシャルティケミカルズ」の日本法人である同社は、100%植物性の天然物の土壌改良剤GT-S-Wと同社が販売代理を務める食品乾燥機の2商品を紹介。昨年度、中南米アグリビジネスセミナーに参加し、訪日研修生に製品の紹介をした。GT-S-Wは中国を中心に東南アジア、韓国、北米に販売実績があるものの、食品乾燥機についてはまだ販売実績がなく、本商談会を通して新たな販路の発掘・拡大を目指している。
- GT-S-Wの消臭効果の他に、成長促進作用・土壌改良による農産物の増産、抗菌効果、農薬の代替品としての製品紹介を行った。食品乾燥機については約45度の低温で遠赤外線を使用して乾燥させる高栄養価低温植物乾燥の技術を中南米農業者に向けて提案した。
- 日系農業者からは食品乾燥機の機能やGT-S-Wの使用法、それぞれの価格など細かな質問が出た。乾燥機の価格が他社と比べて高い理由を聞かれる場面もあったが、同社の食品乾燥機は水分量90%以上のものも乾燥可能で、はちみつやホエイなどの粉末化もできることで差別化している。昨年度、研修終了後に食品乾燥機に関心を持ち同社を訪問した研修生もいたこともあり、商談会でも日系農業者からの一定の関心は示されていた。

b. 企業所感

- オンラインなので一人一人会話や表情を見て商品への興味度合いが読み取りにくかった。
- DRY FLAVOR（食品乾燥機）への興味が深いと聞いていたが、実際はGT-S-W（土壌改良剤）に対しての質問の方が多く出ていたようだった。

⑥ 株式会社 EM 研究機構

日程	1月29日（金）9:00～10:50
発表者	株式会社EM研究機構 浅見尚徳 Ambiem Ltda.（ブラジル現地パートナー企業）Cid Simões
商材	EM(乳酸菌、酵母、光合成細菌などの有用微生物)を利用した土壌改善

a. 実施概況

- 同社は中南米各国にパートナー企業を有し、日系農業者を対象に、より一層の販路拡大を目的に昨年度に続いて今年度も本事業へ参加。酵母や乳酸菌、光合成細菌などの有用微生物で構成されたEM（有用微生物群）を使った土壌改良剤を取り扱っており、土壌の健全化や収穫量の維持への貢献が期待される。今回はEMを使った農業資材の商品紹介および海外の導入事例、土壌改良の提案をブラジルのパートナー企業と共に行った。

- 収穫量の維持や土壌改良の他に、有機物（微生物）による土壌内の微生物の活性化による病気などに対する品質管理コントロールが可能なことから参加者の関心は非常に高かった。
- 現地パートナーの農業技師によるバイオ科学の観点からの商品説明と現地購入の容易さが大きなアドバンテージとなり、中南米農業者からの反応も良く質問も多く出た
- 今回の商談会ではブラジルパートナー企業のプレゼンテーションが功を奏し、中南米農業者の商品に対する関心の度合いも高かった。中南米各国にパートナー企業がいることで、日系農業者が購入しやすく、ビジネスに繋がる可能性は高いと考えられる。

b. 企業所感

- 二度目の参加である今回は、ブラジルのEM製造者に説明をいただいたので、参加者はより興味深く話を聞いていたのではと思う。
- 前年度も数名の参加者が各国パートナーに問い合わせを行いEM製品を購入したとのことだった。今回もセミナー中多くの質問があったこともあり、各国のパートナーに問い合わせが来るのではと期待している。



カナジアジャパン株式会社

株式会社 EM 研究機構

⑦ 関西産業株式会社

日程	2月3日（水）8:00～8:50
発表者	開発営業部 轟晃成
商材	米の粃殻を炭化してできる粃殻くん炭を使用した土壌改良剤の製造装置の現地導入

a. 実施概況

- 同社は米の粃殻を炭化してできる粃殻くん炭（グリーンパワー®バイオ炭）を原料とした土壌改良剤を製造する装置の販売を展開している。くん炭は多孔質性を持つため、透水性の改善のほか、通気性の改善や微生物の培養、pHの調整、色が黒いために保温効果などがあり、日本においては政令指定の土壌改良資材となっている。廃棄物となるもみ殻などの有効利用になる。
- 精米過程で出るもみ殻などの廃棄物を使って肥料を作るということで、中南米側参加者からの関心も高かったが、導入費用が高額なためリース契約、ローン、JICA等の政府機関のサポートがあるかという質問が出た。中南米の現地業者を使って機械導入費用を抑えられるかと質問もあがり、費用面での工夫やサポートが求められた。
- 機械自体の注目度は高かったので、費用面での課題を、リース契約、ローン、JICA等の政府機関のサポート等で対応できれば可能性が広がるのではないかとと思われる。

b. 企業所感

- 土壌改良については中南米側の関心が高かった。一方でブラジルでは炭の相場が予想より高かったが、BBQ用に炭が実際に使われているということも市場の広がりを感じた。
- 一方、米の消費・生産量は少なく価格も安価であること、粃殻の破棄があまり問題視されていないことで、現在の機械導入の価格設定では採算性が厳しいことが分かった。導入に向けたファイナンスのスキーム・パッケージや現地工事費用を圧縮する工夫も必要と感じている。JICA・NEDOといった公的な資金についても、引き続き検討していきたい。